



恩田だより

令和6年10月
横浜市立恩田小学校
TEL (961) 7651
FAX (961) 6014



自分で考える

副校長 津守 逸実

夏休みが終わり早1か月が過ぎようとしています。今夏も異常ともいえるほど暑かったです。恩田小学校の百葉箱の中には「みどり環境科学研究所」のデータ記録装置内蔵の温度計を設置しています。なぜなら、地球温暖化・ヒートアイランド現象により高温化した横浜市内の暑さの状況把握のため気温観測を行っているからです。昨年の横浜市内の9月の平均気温が観測開始（平成26年）以来、最高になっていました。（22.8℃⇒26.9℃）今年の9月も異常な暑さだったので、どのような結果が出るのか気になるところです。

9月21日からの3連休を境にいくらか秋の気配が漂ってきて、ようやく子どもたちは元気よく校庭で遊ぶことができるようになりました。また、恩田スポーツフェスティバルに向けた演技の学習に熱心に取り組んでいます。今から10月に行われる恩田スポーツフェスティバル本番でどのような姿を見せてくれるのか楽しみです。

さて、子どもたちは朝登校してから下校するまでの間、どのような目的意識をもって学校生活を送っているのでしょうか。朝、校門で子どもたちを出迎えて挨拶をしているのですが、子ども一人ひとりによって挨拶の仕方も千差万別です。

- ・近寄ってきて自ら挨拶する・挨拶をされたら挨拶をする・挨拶されたら会釈だけする
- ・挨拶をされても黙って下を向いている・挨拶をされても遠ざかっていく

どの挨拶が相手に与える印象がいいのか「子ども自身に考えて」もらいたいです。

「自分で考える」のことに関連して、以前、私が受けた研修内容を書くと次のようなことが挙げられます。これからの時代「自己決定する力」が必要。人は与えられることに慣れていく。手を掛けられた生徒は自律できなくなり自分がうまくいかないことを誰かのせいにするようになる。主体性を失い、自分も他人も嫌いになる。指示されたことをこなすだけの従順な子どもの姿⇒日本の労働生産が低いのも当然。一斉授業型（受け身）の授業では主体性・当事者意識は育たない。解決に向けた対話力も育たない。学習者主体で「何を学んで」「どう学ぶか」学びのスタイルは人それぞれ異なる。自律型の人材を育てるポイントは「心的安全性」。失敗が許される環境づくり（自己決定が重要）⇒自己決定を積み重ねる⇒自己肯定感が高まる。

さらに、「自分で考える」の続きとして最後に、ここで旬の「大谷翔平選手」について書きたいと思います。現在、53本塁打56盗塁。この学校だよりが発行される頃には、彼はどんな記録を打ち立てているのか楽しみなところです。さて、彼が高校生の時に書いていた「目標達成シート」について紹介します。目標を達成する9マスの思考法の理論は、項目分けした枠に多視点でバランスよくアイデアを出すことができるというものです。まさに、彼は高校時代から「自分で考える」をすでに実践していたのです。

全ての人が大谷選手のようにはなれませんが、生き方や考え方を学ぶことはできるはずで、これから、子どもたちは自分の人生を自分で決めるという幸せがあります。その一助になるのが我々（教職員・保護者・地域の方）だと思っております。今後とも日常の学校生活をはじめ、様々な場面での子どもたちが自ら考えられるように保護者・地域の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。